



Global Network  
on Extremism & Technology

極右派の暴力的および非暴力的な  
オンライン・マニフェストにおける  
暴力的かつ陰謀的なナラティブの役割  
(2015-2020 年)

---

Dr William Allchorn, Dr Andreas Dafnos および Francesca Gentile

**エグゼクティブサマリーと概要**

GNETはロンドン大学キングスカレッジの *International Centre for the Study of Radicalisation* (ICSR: 過激化研究国際センター) が取り組む特別プロジェクトです。

本レポートの著者は *Dr William Allchorn, Interim Director, Centre for the Analysis of the Radical Right, Dr Andreas Dafnos, Postdoctoral Researcher, Universität der Bundeswehr München* および *Francesca Gentile, Research & Policy Intern, Centre for the Analysis of the Radical Right* です。

Global Network on Extremism and Technology (GNET: 過激主義とテクノロジーに関するグローバルネットワーク) はテロリストのテクノロジー利用の理解と対抗措置のために業界が資金提供する独立したイニシアティブ、Global Internet Forum to Counter Terrorism (GIFCT: テロリズムに対抗するためのグローバルインターネットフォーラム) の支援を受けた学術研究のイニシアティブです。GNETはロンドン大学キングスカレッジの戦争研究学部の学術研究センター、International Centre for the Study of Radicalisation (ICSR) により召集され、統制されます。本文書に含まれる見解と結論は著者の見解と結論であり、明示、暗示を問わず、GIFCT、GNETまたはICSRの見解と結論を代表するものではありません。

## お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピーに関しては以下にお問い合わせください。

ICSR  
King's College London  
Strand  
London WC2R 2LS  
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**  
E. **[mail@gnet-research.org](mailto:mail@gnet-research.org)**

Twitter: **[@GNET\\_research](https://twitter.com/GNET_research)**

本エグゼクティブサマリーと概要は複数の言語（アラビア語、英語、フランス語、ドイツ語、インドネシア語および日本語）で提供されています。GNETのその他の出版物同様に、これらおよびレポート全文（英語のみ）はGNETのウェブサイト [www.gnet-research.org](http://www.gnet-research.org) から無料でダウンロードできます。

## エグゼクティブサマリー

**陰** 謀論は極右派単独犯 (RWLA: right-wing lone actor) の過激化における主要材料として近年大きな注目を浴びるようになった。<sup>1</sup> それが高危険なオンラインエコシステム内の非人間的な言語であろうと、暴力行為のゲーミフィケーションまたはそのような行為を遂行するための教材が今や容易に共有できることであろうと、陰謀論は一部の研究者から「過激化乗数」効果をもたらすと指摘されてきた。<sup>2</sup> これは、過激派は場合によっては暴力につながる即時の並外れた行動を選ぶ可能性を高めるといふ、証拠や道徳に影響されない、現実に関する自己確認的で排他的な説明を提供している。<sup>3</sup>

内集団と外集団のアイデンティティを鋭く描き、具体化し、二極化させる過激派の言語の重要性については現在研究者の間でコンセンサスがあるが、特に極右派の暴力的かつ陰謀的な言語に認められる構造と言語的標識と、そのような言語が個人を暴力的行動に走らせる方法間の正確な質的相違については、まだ十分な研究が行われていない。<sup>4</sup>

したがって本 GNET レポートの目的はテック企業に役立ち、陰謀的かつ暴力的な言語に関する暴力的なマニフェストと非暴力的なマニフェスト間の相違をさらに推考し、明瞭にする経験的な証拠を提示し、分析することである。主要な用語の組織的な質的分析を行うためにテキストマイニング技術と共に、これらのマニフェストの綿密な質的コンテンツ分析を利用した調査の結果は以下の通りである。

- 1. 陰謀的なナラティブ:** 調査の対象となったすべての極右派の暴力的および非暴力的マニフェストの共通点は白色人種が絶滅し、非白人に入れ代わるという陰謀的なナラティブである。
- 2. 言語的相違点:** 言語的な特徴に関しては、標的とされる外集団、フォーマットおよび著者の定める解決策に関して RWLA 内のマニフェスト、RWLA のマニフェストと非暴力的なマニフェスト間で大きく異なっている。
- 3. 言語的類似点:** しかし、より重要なことは、暴力的マニフェストと非暴力的マニフェストを比較した場合、類似点が明らかに相違点に勝っていることである。『Grievance Dictionary』を使い、サンプルとして利用した2種類の非暴力的マニフェストにはその他の RWLA マニフェストと同等またはより多くの暴力的で脅迫的な言語が含まれていた。

1 Allam, H., "Right-Wing Embrace Of Conspiracy Is 'Mass Radicalization,' Experts Warn", *NPR*, 2020年12月15日, ウェブサイト: <https://www.npr.org/2020/12/15/946381523/right-wing-embrace-of-conspiracy-is-mass-radicalization-experts-warn?t=1642494720120>.

2 Bartlett, J. & Miller, C., "The power of unreason: Conspiracy theories, Extremism and counter-terrorism", *Demos*, 2010年8月, ウェブサイト: [https://demosuk.wpengine.com/files/Conspiracy\\_theories\\_paper.pdf?1282913891](https://demosuk.wpengine.com/files/Conspiracy_theories_paper.pdf?1282913891).

3 Sustein, C.R. & Vermeule, A., "Conspiracy Theories: Causes and Cures", *The Journal of Political Philosophy*, 17:9, 2009年4月, ウェブサイト: <https://doi.org/10.1111/j.1467-9760.2008.00325.x>.

4 参考文献 Haslam, N., Loughnan, S. (2014), "Dehumanization and Infrahumanization", *Annual Review of Psychology*, 65, 399-423. doi:10.1146/annurev-psych-010213-115045; Reicher, S., Haslam, A., Rath, R. (2008), "Making a virtue of evil: A five-step social identity model of the development of collective hate", *Social and Personality Psychology Compass*, 2, 1313-44; Leyens, J.-P., Rodriguez-Perez, A., Rodriguez-Torres, R., Gaunt, R., Paladino, M.-P., Vaes, J., Demoulin, S. (2001), "Psychological essentialism and the differential attribution of uniquely human emotions to ingroups and outgroups", *European Journal of Social Psychology*, 31, 395-411. doi:10.1002/ejsp.50; and Savage, R. (2013), "Modern genocidal dehumanization: A new model", *Patterns of Prejudice*, 47, 139-161. doi:10.1080/0031322X.2012.754575.

Baele の『conspiratorial narrative archetypes 陰謀的なナラティブの典型 (2019)』を利用した、これらのナラティブの構造の概要は以下の通りである。<sup>5</sup>

**Baele's (2019) Conspiratorial Narrative Archetypes for Violent Right-Wing Extremist Manifestos (極右派の暴力的マニフェストの陰謀的なナラティブの典型)**

	極端な外集団	近接した外集団	混合の集団	内集団
Roof の 2015 年 マニフェスト	黒人社会	アフリカ系 アメリカ人	アメリカ人の 「愛国主義者」 (またはアメリカの 民主主義の支持者)	「抑圧された白人」
Tarrant の 2019 年 マニフェスト	非ヨーロッパ系 および非西洋の 外国人	白人国家における 非ヨーロッパ系 および非西洋の 外国人	企業と国家、 グローバリスト、 主流保守主義 および左派	ヨーロッパ人/ 西洋人
Earnest の 2019 年 マニフェスト	「国際的ユダヤ人 集団」	ユダヤ系 アメリカ人	民間資本、 セレブリティ文化 およびエンターテ インメント業界	白人
Crusius の 2019 年 マニフェスト	ヒスパニック社会	アメリカ、特に テキサス州の ヒスパニック社会	共和党支持者と 民主党支持者、 企業	「愛国的な アメリカ人」
Balliet の 2019 年 マニフェスト	非白人集団	ユダヤ系ドイツ人 集団	ドイツ連邦共和国	「抑圧された白人」
Rathjen の 2019 年 マニフェスト	中東、北アフリカ および東アジア 民族集団	トルコ、北アフリカ、 中東系のドイツ 移民	外国人を国外 追放したくない ドイツ人	民族的に白人の ドイツ人

**Baele's (2019) Conspiratorial Narrative Archetypes for Non-Violent Right-Wing Extremist Manifestos (極右派の非暴力的マニフェストの陰謀的なナラティブの典型)**

	極端な外集団	近接した外集団	混合の集団	内集団
Der Dritte Wegg の マニフェスト	「外国の支配」	ドイツの失業中の 外国人と亡命 希望者	ドイツの 「国際主義者」と 「資本主義者」	ドイツ 「人/人種」
Traditionalist Worker Party の マニフェスト	非白人、 非ヨーロッパ系の 非キリスト教徒	アメリカの非白人、 非キリスト教徒、 非ヨーロッパ系の 非ヨーロッパ人	アメリカの 「政治家」と「 オリガルヒ」	「ヨーロッパ人」
Nationalist Alternative の 「反エルサレム宣言」	「国際的ユダヤ人 集団」	ユダヤ系 オーストラリア人	「自由主義の白人」 と自由主義の支配 者層	オーストラリア人 集団

<sup>5</sup> Baele S. J., "Conspiratorial Narratives in Violent Political Actors' Language", *Journal of Language and Social Psychology*, 38(5-6), 706-34, 2019. doi:10.1177/0261927X19868494.

## 概要

**内** 集団と外集団のアイデンティティを鋭く描き、具体化し、二極化させる過激派の言語の重要性については現在研究者の間でコンセンサスがあるが、特に極右派の暴力的かつ陰謀的な言語に認められる構造と言語的標識と、そのような言語が個人を暴力的行動に走らせる方法間の正確な質的相違については、まだ十分な研究が行われていない。<sup>6</sup>

我々の調査の結果は印象的であると共に、場合によっては意外であった。マニフェストの質的分析を行った結果、RWLA のマニフェストでは行動のタイムラインと行動への呼びかけが早められ、より暴力的な傾向を示してはいるものの、全てのマニフェストに共通しているのは白人種は絶滅し、非白人に入れ代わるといった陰謀的なナラティブであることが分かった。言語的特徴に関しては、標的とされる外集団、フォーマットおよび著者によって定められた解決策に関して RWLA 内、RWLA のマニフェストと非暴力的なマニフェスト間で大きく異なっている。例えば、ヒスパニックは Crusius の憤怒の標的である一方、黒人が Roof の主な外集団であり、Tarrant と Rathjen にとってはイスラム教徒がこの役割を果たしている。また興味深いのはこれらのマニフェストで使われる陰謀的な言語のレベルがマニフェスト間で異なることである。Rathjen は秘密組織が彼のすべての行動を監視しているという被害妄想的な陰謀論を重視しているという点でアウトライアーである。

『Grievance Dictionary』<sup>7</sup>によると、暴力的なマニフェストと非暴力的なマニフェストを比較した結果、類似点の方が相違点より多いことが明らかになった。全体的には非暴力的なマニフェストと比較して 6 種類の暴力的なマニフェストのうち 4 種類のマニフェストにより高い比率の暴力的で脅迫的な言語が含まれていた。しかし、困ったことに Roof と Rathjen の場合、暴力的なマニフェストの脅迫的な言語と同等の言語が使われている。Der Dritte Weg と Traditionalist Worker Party のマニフェストの場合、暴力的なマニフェストを上回るレベルの暴力的で脅迫的な言語が使われている。

要するに、問題は予想以上に複雑であることが明らかになった。暴力的なマニフェストと非暴力的なマニフェストは共に外集団の定義に非人間的な用語を使用し、定義づけられた外集団が実存的な脅威であるかのような方法で人々に行動（暴力的、非暴力的を問わない）をとるための領域を描いている。我々は、本レポートの図表がテック企業、政策立案者および専門家がこの重複を正しく理解するだけでなく、構造、パターン、テーマの観点からこの調査結果を利用し、非人間的なレトリックの機能性、それがどのように機能するか、そしてそれが陰謀的

6 参考文献 Haslam, N., Loughnan, S. (2014), "Dehumanization and Infrahumanization", *Annual Review of Psychology*, 65, 399–423. doi:10.1146/annurev-psych-010213-115045; Reicher, S., Haslam, A., Rath, R. (2008), "Making a virtue of evil: A five-step social identity model of the development of collective hate", *Social and Personality Psychology Compass*, 2, 1313–44; Leyens, J.-P., Rodriguez-Perez, A., Rodriguez-Torres, R., Gaunt, R., Paladino, M.-P., Vaes, J., Demoulin, S. (2001), "Psychological essentialism and the differential attribution of uniquely human emotions to ingroups and outgroups", *European Journal of Social Psychology*, 31, 395–411. doi:10.1002/ejsp.50; and Savage, R. (2013), "Modern genocidal dehumanization: A new model", *Patterns of Prejudice*, 47, 139–161. doi:10.1080/0031322X.2012.754575.

7 van der Veegt, I., Mozes, M., Kleinberg, B. et al., "The Grievance Dictionary: Understanding threatening language use", *Behavioural Research* 53:2105–19, 2021. <https://doi.org/10.3758/s13428-021-01536-2>.

で排他的な信念のために行動を取ることを促す危険なイデオロギーのエコシステムを創造するためにどのように利用されるかを見極める助けとなることを望む。我々は明記されたモデル化が予測的性質を持つと提唱してはいないが、代わりに他の専門家や研究者が『Grievance Dictionary』と『Baele's archetypes of 2019』を利用して他のオンライン過激派コミュニティの暴力的かつ陰謀的な言語の分析を行うことに挑戦してほしいと考えている。





### お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピー  
に関しては以下にお問い合わせください。

ICSR  
King's College London  
Strand  
London WC2R 2LS  
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**  
E. **[mail@gnet-research.org](mailto:mail@gnet-research.org)**

Twitter: **[@GNET\\_research](https://twitter.com/GNET_research)**

GNET のその他の出版物同様に、本レポートは GNET  
のウェブサイト [www.gnet-research.org](http://www.gnet-research.org) から無料で  
ダウンロードできます。

© GNET